

浦上玉堂の琴詩書画の世界を明らかにし、春琴・秋琴の生涯および明治から現在に至る浦上家の歴史を詳述する

浦上家史編纂委員会 編

浦上玉堂関係叢書

資料編 I・II

浦上家の歴史

浦上玉堂父子の藝術 (別冊・CD)



児遊謙寫

浦上春琴画《浦上玉堂像》弹琴部分 文化10年 岡山県立美術館蔵

学藝書院

全巻の内容

〔資料編Ⅰ〕（カラー口絵一丁・本文五二八頁）

浦上氏編年資料（畑 和良編）

前期浦上氏 嘉吉元年（一四四一）

浦上則宗周辺 長祿三年（一四五九）～文龜二年（一五〇三）

浦上村宗周辺 永正三年（一五〇六）～享祿四年（一五三三）

浦上政宗周辺 天文五年（一五五六）～二十四年（一五五五）

浦上宗景周辺 天文二十四年（一五五五）～天正六年（一五七八）

浦上氏主要人物花押一覧／浦上氏略年譜

浦上家系図及び関係資料（守安 收編）

浦上家系図と墓所／浦上家関係資料

浦上玉堂関係資料（守安 收編）

止仁録（附・小君則、私記）／北遊草

『玉堂琴譜』及び「玉堂琴譜後集草稿」

『玉堂雜記』及び「玉堂雜記草稿」

『玉堂琴士集』前集及び後集（漢詩文）

玉堂書状（各所宛二十通・大塚荷溪宛十七通・参考五通）

玉堂編年資料（全152項目）

明和以前・安永年間（一七三三～一七六〇） 1～11

天明年間（一七六一～一七六八） 12～30

寛政年間（一七九一～一八〇〇） 31～72

享和・文化年間（一八〇一～一八二七） 73～140

文政元年（一八二八）以後 141～152

江戸時代後期の文人画家であり琴士である浦上玉堂とその息子たち春琴・秋琴父子の藝術、そして、それを生み出した背景となる浦上家の歴史をまとめるために、二〇一二年に浦上家史編纂委員会が発足して早くも十年に近い歳月が流れました。この間、様々な玉堂所縁の事業活動と並行しながら、編纂委員会の第一義的な目的であり、また成果物でもある『浦上玉堂関係叢書』の『資料編Ⅰ・Ⅱ』、『浦上家の歴史』が刊行され、そしてここに全三巻四冊の最後となる『浦上玉堂父子の藝術』が完成し、皆様方のお手元に届けられることを心から嬉しく思う次第です。

言うまでもなく、この『浦上玉堂父子の藝術』は編纂活動の中核をなす部分であります。内容が学術的な評価に堪えるものであることに加え、先ずは文人玉堂の藝術的成果である琴詩書画を軸に、その広がりや奥行きを明らかにしながら、家に矜持をもつ武士であり、自己に忠実に生きた自由人でもあった玉堂の人間の側面を、今日的視座から新たに見てとれないものかと願っております。それがここに、私が期待していたものを遙かに凌駕する一冊の本として、人間玉堂の多様な姿が、執筆者の方々の手によって解き明かされ、今、時間と空間を越えて新しい玉堂の姿を身近に見せてくれるように感じます。（『浦上玉堂関係叢書』完結の辞より）

〔資料編Ⅱ〕（カラー口絵一丁・本文三九〇頁）

浦上春琴関係資料（尾島 治編）

『睡菴清秘録』及び『清秘録 下』

『論画詩』及び『統論画詩』

「日 録」／「諸国人名文通転致人名」

「日省簿」／「御蔵物品々 留」

春琴書状（全89通）

春琴編年資料（全91項目）（守安 收・尾島 治編）

享和・文化年間（二八〇）～（二八七） 1～30

文政年間（二八八）～（二九五） 31～62

天保年間（二八〇）～（二八四） 63～87

弘化元年～三年（二八四）～（二八六） 88～91

浦上秋琴の半生と関係資料（守安 收編）

浦上家関係年譜

玉堂以前の浦上家関係年譜 正保二年（二四五）～元文六年（二七二）

浦上玉堂（春琴・秋琴）年譜 延享二年（二七五）～文政三年（二八〇）

浦上春琴（秋琴・宗尚）年譜 文政四年（二八二）～弘化三年（二八六）

浦上秋琴（宗尚・宗喬）年譜 弘化三年（二八六）～明治四年（二八七）

明治四年以降の浦上家年譜 明治四年（二八七）～令和元年（二〇一九）

〔浦上家の歴史〕（カラー口絵二丁・本文六五六頁）

浦上氏の歴史……………畑 和良

「浦上」の由来と紀姓浦上氏

前期浦上氏／浦上則宗周辺／浦上村宗周辺

浦上政宗周辺／浦上宗景周辺

浦上玉堂の生涯……………守安 收

玉堂の前半生―脱藩以前／脱藩後の玉堂

玉堂画の特徴と魅力

浦上春琴の生涯……………守安 收

文化八年、父との同居以前／文化八年、父との同居以降

浦上玉堂・春琴 参考文献

浦上春琴―京都での暮らし……………尾島 治

浦上秋琴のこと……………川延安直

鴨方藩士 浦上紀一郎宗尚……………尾島 治

近代以降の浦上家の人々……………山吹知子

宗喬の時代 武士の世の終焉

武七郎、宗次と英男の時代

宗次の起業と定司への継承

貞子 林原家からの嫁

定司 社会課題への挑戦

紀之 新たなフィールドへ

家の歴史を編む／伝来品の流れ

遅れてきた子孫の想い……………浦上紀之

玉堂を中心とした近世近代浦上家系図

会津浦上家・福岡浦上家所蔵浦上関係資料

浦上家関係年譜

〔浦上玉堂父子の藝術〕（カラー口絵二丁・本文八六〇頁）

「玉堂琴譜」論攷……………坂田進一

玉堂以前の琴事／東臯心越の東渡／玉堂の琴事／

玉堂 琴の師友／玉堂琴系譜／「北遊草」に樂事を読む／

催馬楽／東讚の琴客および琴譜校訂／琴譜刪定／

「玉堂琴譜」須知

瘦蘭齋刪定『玉堂先生琴譜』所収全二十三曲（復元CD添付）

『玉堂先生琴譜』演奏曲目／『玉堂先生琴譜』全曲録音の経緯

詩と絵画の間―玉堂と春琴・秋琴……………高橋博巳

近世の中国書法への憧れ―浦上玉堂の書……………島谷弘幸

浦上玉堂・春琴と東アジア絵画……………板倉聖哲

浦上春琴の作画と販売……………尾島 治

―文人画家として生きた文人―

浦上玉堂を伝えた人と言葉 春琴の役割から……………松尾知子

浦上玉堂とのお付き合い・大原三代とその後……………大原謙一郎

浦上玉堂・春琴・秋琴 印譜と作品一覧……………守安 收編

人名索引 「浦上氏」「浦上家」

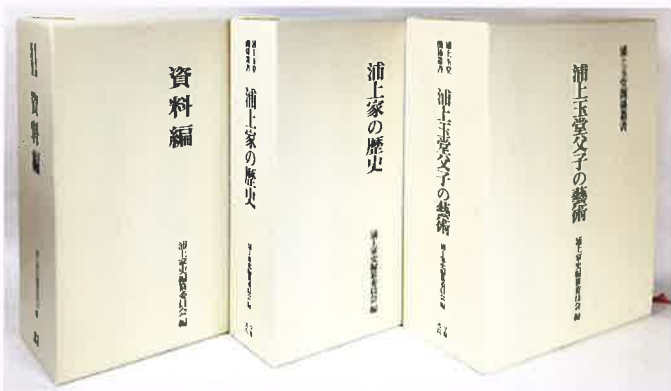
『玉堂先生琴譜』所収全二十三曲CD……………坂田進一 演奏

別冊「文人性と文人画 近代日本への継承と海外での受容」

（アンドレ・マルローが注いだ眼差しを発端に）

講演 高階秀爾「売茶翁が結ぶ縁 玉堂・木米・山陽、そして漱石」

座談会 高階秀爾・板倉聖哲・大橋美織・守安收・安永拓世



浦上玉堂関係叢書（分売可）

編著 浦上家史編纂委員会
 各巻 資料編Ⅰ・Ⅱ（本体 20,000 円＋税）
 ISBN978-4-904524-09-1 C3371
 浦上家の歴史（本体 12,000 円＋税）
 ISBN978-4-904524-10-7 C3371
 浦上玉堂父子の藝術（本体 20,000 円＋税）
 ISBN978-4-904524-11-4 C3371
 体裁 貼函・バクラム装・A5判
 発行 学藝書院

・本叢書は、資料編・浦上家の歴史・浦上玉堂父子の藝術からなる。
 ・「資料編」では、浦上玉堂と春琴・秋琴が家祖と仰いだ中世「浦上氏」と「浦上家」、玉堂・春琴・秋琴等に関わる種々の資料を可能な限り忠実に収録。
 ・「浦上家の歴史」では、「資料編」を基に、中世「浦上氏」の歴史を再現し、さらに江戸期の浦上玉堂・春琴・秋琴の生涯を語り、明治から現代に至る「浦上家」の変遷を詳述。
 ・「浦上玉堂父子の藝術」では、琴詩書画に秀でた文人玉堂が、「玉堂琴士」と称し、七絃琴を終生愛でた琴の世界を具体的に論ずると共に、自著『玉堂先生琴譜』収載の全二十三曲をCDに再現。
 また玉堂の詩を読み解き、独特の書を中国及び同時代の書の中で語る。玉堂・春琴の画作を中国・朝鮮の画と比較し、その影響を明らかにする。流行画家春琴に比して、生前、無名に近かった玉堂の画作が、近代以降どのように評価されたのか。その具体例として大原家との関わりを述べる。巻末に、原寸大の印譜と共に、五百点余の玉堂作品・二百点の春琴作品・四十点の秋琴作品をデータを附して図版掲載する。